

新宮町東部地域まちづくりにおける現状と課題

九州産業大学建築都市工学部 学生会員 蓮尾 拓也

九州産業大学建築都市工学部 正会員 山下 三平

1. はじめに

福岡市東区に隣接する福岡県糟屋郡新宮町は2006年から中心市街地整備事業に着手し、2010年3月には新宮中央駅が開業した。多様な施設が数多く建設され来訪者と定住者も増えている。市街化が進む一方、町の南東部に位置する立花口と的野区は人口が減少している。自然豊かな地域であるが空き家、空き地が目立つ。来訪者を増やし活気のある地域にするための計画の策定と実行が急務である。

そこで本研究は、新宮町東部地域のまちづくりの現状を把握しその課題を考察する。

2. 研究方法

(1) 対象地域について

新宮町は総面積 18.9 km²で、福岡県の北西部に位置し、南は福岡市、北は古賀市、南東は久山市の3市町に隣接している。新宮町の人口は平成29年時点で32,542人である。平成27時点で立花口区は595人、的野区は82人である。本研究ではこの町の国道3号線の東側に位置する東部地域の立花区と的野区を扱う(図1)。立花口には立花山(367m)があり、年間約3万人の登山客が訪れている。様々な貴重な重要な史跡があり多くの古民家が建ち並んでいる。的野区は農地を活用し年間を通して農業体験と貸し農園を行っている。四季折々の花や山桜、藤、など四季を感じることができる。



図-1 新宮町東部地域の立花口と的野区 (ArcGISをもとに作成)

(2) 立花口区と的野区のまちづくり

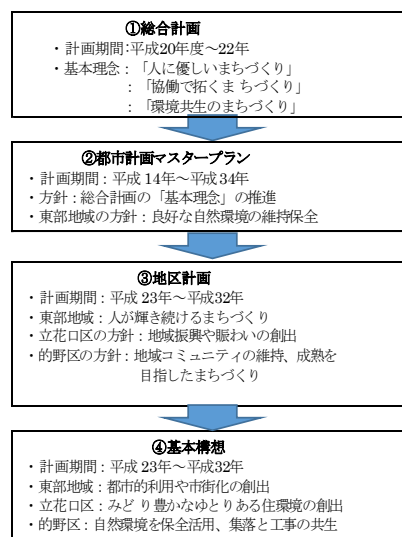


図-2 まちづくり計画のフロー

図-2 に新宮町のまちづくりに関する計画の流れを示す。

新宮町総合計画では、町の将来像に「人が輝き快適に暮らせる元気なまち新宮」を挙げている。策定期間は平成20年度から22年度である。東部地域では良好な自然環境を維持保全しながら、町民の交流の場として整備活用し、地区内の既存集落や工業は、地区計画の導入により良好な環境を保全しながら活性化することを目標としている¹⁾。

新宮町都市計画マスタープランでは、東部地域の振興策として、農業体験農園や観光農園など有効活用を目標としている。平成12年3月に制定され、23年に改訂された。

地区計画の策定は平成23年である。的野区は「地域コミュニティの維持成熟を目指した地域づくり」を方針として、営農条件と住環境との調和に配慮しつつ良好な住環境をもった住宅を形成するとともに、維持保全を図ることを目標としている。一方、立花口区では、定住の促進を図るとともに周辺や集落の環境に配慮した適切な土地活用を目標として検討を行っている。

基本構想では、立花口区は「伝統的な町並みの保全と定住化の推進を図る」と「緑豊かなゆとりある住

環境を創出すること」を目標としている。期間は23年から平成32年の10年間である。的野区は「豊かな自然環境を保全活用するとともに集落と工場が共生できる市街地の創出を図る」構想が存在である。

以上を踏まえて平成28年度より、地元会議の現状と課題をより把握するために、両区のまちづくり会議に参加し、その内容について調査を行った。以下にその報告をし、内容を検討する。

3. まちづくりのための会議

(1) 立花口区

立花口区の地元の活動団体である Tachibana All Powers (TAP) を中心に新宮町役場と九州産業大学が連携している。そのための月例まちづくり会議が行われている(図-3)。会議の概要を表-1に示す。まちづくり推進団体 TAP の設立は2016年4月である。立花地区の振興を目的として、空き家対策や人材活用、観光振興、農業振興をしている。古民家が立花山登山道に建ち並んでいる。これをいかに活用するかが課題である。また、他地域の視察にも積極的であり、TAP の活動はいまのところ活発である。2016年から始められた竹灯籠まつりも盛んで、地元の人々の意欲の源になっている(図-4)。



図-3 立花口区まちづくり会議の様子



図-4 竹灯籠まつりの様子

表-1 立花口区会議の概要

日付	平成28年6月30日	平成28年8月19日	平成28年10月18日	平成28年12月1日
場所	立花口公民館	立花口公民館	立花口公民館	立花口公民館
参加者	20名	24名	15名	25名
内容	・景観セミナーでの立花口をテーマとした発表 ・竹灯籠、作成体験会の開催について ・三城岳の竹林整備事業について	・竹灯籠、製作の報告 ・そのまん流し、細工体験会の開催について ・竹灯籠の販売について ・登山者と沿道民家について意見交換	・竹灯籠の製作展示の報告 ・キャンドル視察について ・視察報告について	・祭り新宮出店 ・竹灯籠開催についての報告 ・産大の学生との意見交換会について
日付	平成29年2月17日	平成29年3月17日	平成29年4月21日	平成29年6月30日
場所	立花口公民館	立花口公民館	立花口公民館	立花口公民館
参加者	20名	30名	20名	20名
内容	・島の漁師のいけま売りに向けた出店報告 ・ボイスカウト竹灯籠製作指導 ・新宮マルシェ出店について報告 ・研修について	・タチバナダカラプロジェクト年次報告会 ・産大による4件の報告 ・TAPからの予定報告会	・相島！春フェスの出典 ・九州産業大学との連携事業について ・平成29年度活動計画について	・景観セミナーでの立花口をテーマとした発表 ・竹灯籠の製作、展示について ・三城岳の竹林整備事業の件について
日付	平成29年7月25日	平成29年8月27日	平成29年9月19日	平成29年10月30日
場所	立花口公民館	立花口公民館	立花口公民館	立花口公民館
参加者	18名	30名	18名	15名
内容	・展望台工式(報告) ・六所神社 竹灯籠まつり(報告) ・竹細工大会(報告) ・今後の古民家調査 ・津屋崎干渉視察(確認・協議)	・古民家の(空き家)の活用事例 ・福津暮らしの旅事業紹介、等	・第二回広域研修について ・古民家調査 ・第1回たばな竹灯籠まつり実行委員会(報告) ・まつり新宮参加 ・灯籠まつり呼びかけ	・くらでキャンドル視察(報告) ・第2回たばな竹灯籠まつり実行委員会(報告) ・古民家調査(報告) ・第2回竹灯籠まつりについて

(2) 的野区

的野区は月に一度、「むらづくり会議」という集ま

りが行われている(図-5)。地域住民と新宮町役場および九州産業大学が連携している。最近の会議ではコミュニティバス「マリックス」の運行のための議論が活発である。また、地元で栽培されている「的野米」を故郷納税に出し、ブランド化推進を図っている。

拠点づくりもまた大きな議題である。農園の来客を取り込む施設や仕組みづくりを条件としつつ、的野の自然を活かした体験ゾーンのための設備としての整備がいいのか、それとも地元の公民館として地元だけを考えるべきかで意見が二分している。なお、的野区には「サンライズの野」というまちづくり支援団体がある。設立・活動は2016年4月である。地区の自然、伝統農業継、および地域住民の日常生活の支援を行っている。近年の活動では第2回目の「サンライズフェスティバル in 的野」が活況であった(図-6)。



図-5 的野区のまちづくり会議の様子



図-6 サンライズフェスティバル in 的野の様子

表-2 的野区会議の概要

日付	平成28年9月13日	平成29年10月16日	平成29年11月13日	平成29年12月16日
場所	的野公民館	的野公民館	的野公民館	的野公民館
参加者	20名	22名	25名	22名
内容	・的野米 ・農業を使わず	・地域資源を活かした特産づくり(何をやっていくか)(どのような体制で行うか) ・的野公園の活用	・交流拠点づくりについて(現公民館について)(新たな新設について) ・サンライズフェスティバル in 的野について	・交流拠点エリア内の道路等の整備について ・第2回サンライズフェスティバル in 的野について(参加者たちの声)(来年の活動について)

4. 課題

両区の会議に参加した結果、立花口区の会議は、一般的な住民の参加が少なく、立花口区に暮らす人々の生の声が十分拾えていない。一方、的野区は住民が多く参加しており、自分の意見をもっているが有力者の意見に引きずられやすい。こうした課題に地域外の団体が参加することで、住民間の連携が図られることが期待される。その一方で外部のマンパワーは、地元の活動を支えるボランティアとしての役割に偏る地元の要望もあり、それへの適切な対応も重要である。

参考文献

1) 第5次新宮町総合計画

<http://www.town.shingu.fukuoka.jp/>